



ほうない

第7号

村上市立保内小学校
強い力 豊かな心

〒959-3107

村上市下鍛冶屋264-2

TEL0254-62-2302

FAX0254-62-5553

強い「だしの風」の中行われた「あらかわあいさつの日」～9月25日（金）～

だしの風に育つ

校長 須貝 学

延期となっていた運動会が、10月10日ようやく開催されます。例年だと「だしの風MAX」という縦割りの全校種目が行われます。この荒川地区に吹く「だしの風」から種目名が付けられた見応えのある競技です。密集や密接、体の接触をなるべく避けた内容で、時間も短縮される今年の運動会では、残念ながら行われません。

以前、運動会にいられた地域の来賓の方が、この種目が大好きだと話されていました。その理由として、上学年の子が下の学年の子を上手に導きながら、力を合わせて走る姿が感動を誘うというのです。確かに体の大きな上級生二人と小さい下級生二人が、同じ一本の棒を持つて一緒に走るのには、見ている以上に難しいものです。特に折り返しの所では、内側と外側の距離に差があり、速度を調節して回らないと転んだり振り飛ばされたりしてしまいます。そんな競技種目の名前になった本物のだしの風は「荒川だし」

とも呼ばれ、この地区特有の東から吹く風です。古くから生活習慣や文化、農業などにも影響を及ぼしてきた日本各地に見られる局地風の一つです。

そんなだしの風は、子どもたちの登下校中の大きな試練でもあります。季節を問わず、時に台風並みの強風が、向かい風となつて前へ進むのを阻みます。地区によっては真横から吹きつけてくるため、真っ直ぐに進むのが困難だったりします。雨が伴って傘をさしていても、傘ごと吹き飛ばされそうになります。それでも登校班では、上級生が下級生をしっかりと引き連れて登校しています。向かい風時には、前に立つ上級生が壁となつて、遅れて歩く下級生の歩調に合わせて歩いてくれます。このような強風の中を運動会の「だしの風MAX」のように、上級生が下級生を導いて歩く姿もだしの風が育んだ、保内小学校の学校文化の一つと言えるのではないのでしょうか。